

法人がもつ子育て支援事業の 連携と機能統合

「子育てに関する総合窓口RIBBON(りぼん)設立による包括的・多面的な相談支援の効果の検証」

○水澤理恵¹・宮路絵里²・宮路莉奈¹・田中愛³・細貝由佳理³

(¹利用者支援事業きらら(基本型)・²吉田福祉会・³地域子育て支援センターきらら)

キーワード: 包括的支援 多面的支援 連携





吉田福祉会 子育て支援事業

地域子育て支援センター
きらら

利用者支援事業きらら
(基本型)

地域子育て支援センター
にこにこ

一時保育

児童クラブ

児童発達支援

認定こども園

○子育ての相談に関わる3事業

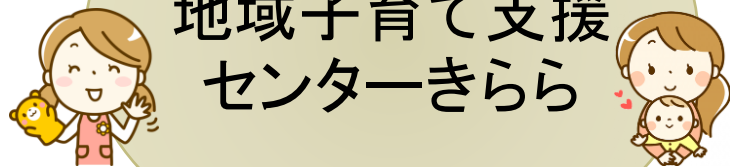
これまでの連携機能・・・

それぞれが単独で
活動をおこなっている状態

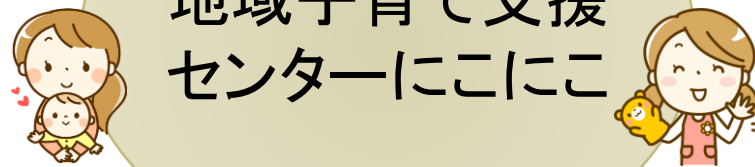


利用者支援事業
きらら(基本型)

支援センターから利用者支援事業に
相談者をつなぐことはあった



地域子育て支援
センターきらら



地域子育て支援
センターにここ

【問題と目的】

- 3事業を同時利用をしている親子の情報共有がなく、助言や援助の重複があったり、情報に混乱があった
- 個別に対応しているため、必要な支援につなげられないなど、支援の方法がうまくいっていなかった

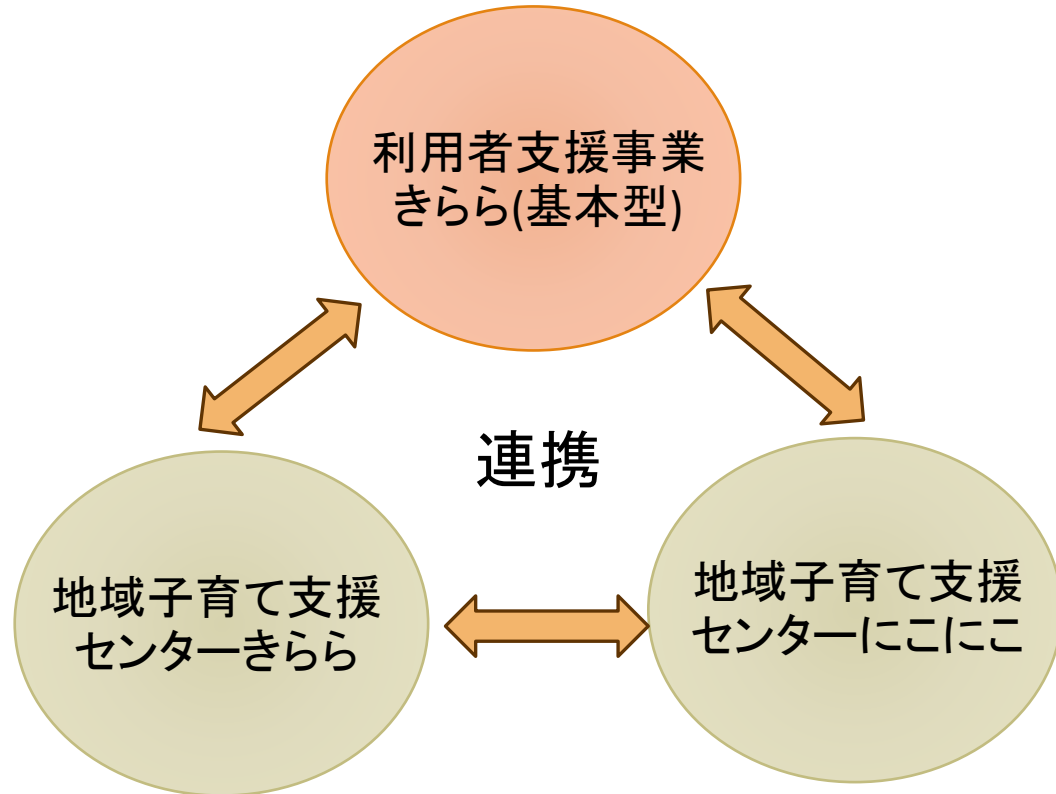


子育て家庭をとり巻く環境の変化、コロナ禍での親子の孤立の深刻化、子どもの育ちの多様性、
家庭保育をする人へのサポートの薄さなど・・・
問題がある中で親子への包括的かつ多面的な支援の提供が必要！



3事業が連携して、それぞれのもつ
機能を統合するとよいのでは・・・？

R4年度 子育てに関する相談総合窓口を結成



利用者支援事業きらら(基本型)を拠点とし、
地域子育て支援センターきらら
地域子育て支援センターにこにこ
が連携し、機能を統合しながら
チームとなって親子に関わる
「子育てに関する相談総合窓口」を結成した。

➡自治体への手続き・・・燕市へ事業内容を説明し、了承を得た。

【RIBBON結成のプロセス】

チームの
ネーミングを募集

子育て支援拠点ネーミング募集

ご挨拶いただきありがとうございます。
出しいただいた案を全部のせますので、どれがいいかな？ これがいい！ 新しい案をおもいつ
ちゃった、など次回の子育てミーティングで話し合いたいと思います。

なないろ・・・持っている色を出し合い、お日様のあたたかな光の中でここに笑顔に慣れる子育
てができるように

ふわふわ・・・優しく包まれて、安心できる子育てができるように

まある・・・みささんとまあるい輪を作って広げられるように

ファミリー・・・フランス語で家族 家族のような存在で寄り添えるように

サンサンスマイル

ゆりかご

つばめの巣

おひさまハート

OOピース

はぐくみ

はぐっと(hugっど)

えがおの聲

子育てまるごとサポート まるる

Coco まる・・・C.o共に 子ども まるごと

にこりんぐ

ふわり

スプラウト

Sunny(サニー)

ぎゅっどクラブ

りぼん

ぶかぶか・・・ぶかぶか浮かんでいる雲のイメージ 雲のようにぶかぶかと近寄り柔らかいクッ
ションで受け入れる

TEAM★きらら・・・一丸団結して、みんなで一緒に乗り越える

RIBBONに込めた思い・・・

様々な形 様々な強さ 様々な色を持った
子育て世帯が 地域とふんわりリボンで
つながりながら 自分らしく安心して
子育てができる

チームの職員から募集し、
実際に出たネーミング案をまとめたもの。
職員で相談し、「りぼん」に決定！



RIBBON周知活動

現在、地域に向けた周知活動に力を入れている。

ロケットくれよん オンラインライブ

コロナ禍だったため、オンラインでのライブを開催。
子育て支援センターきららで2部に分散し、おこなった。



さくらフェス

市のフェスに参加。
RIBBONの資料を配布する他、手形アート・ヨーヨーすくい・輪投げ・読み聞かせなどの子どもが楽しめるスペースを用意した。



地域のフェスに参加

地域のスーパーでの周知活動



様々な理由で支援センターに来られない親子への周知



- ・地域の自治会館で「地域子育てそだんしつ」を開設(月に1度程度を予定)
- ・チラシを地域全戸にポスティングで配布

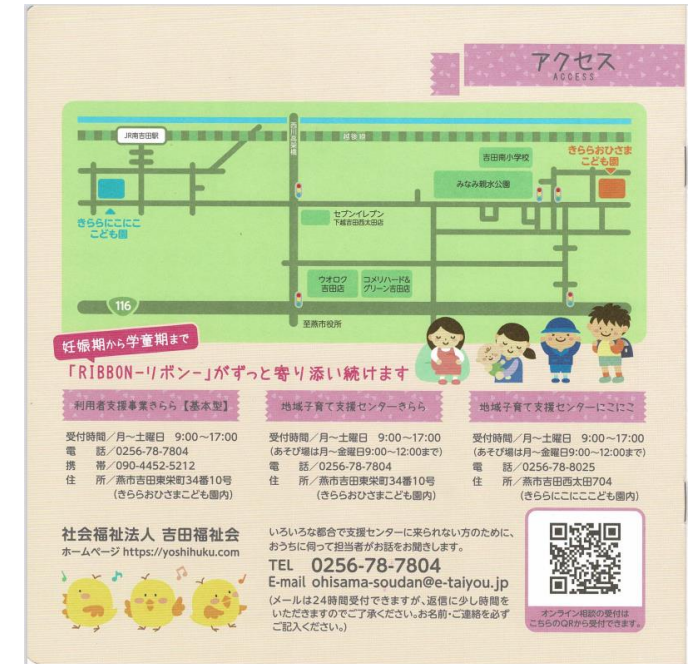
RIBBONパンフレット・カードの作成

カードの裏に職員の名前を書き、
相談者にお渡しする

パンフレット

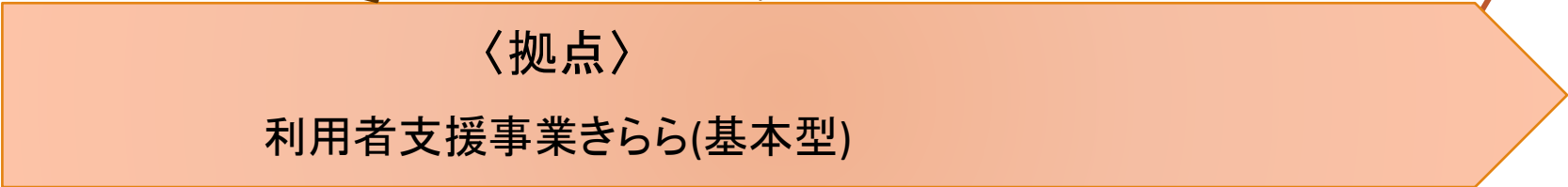
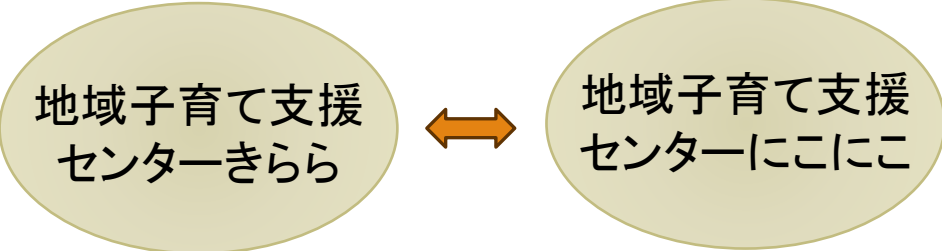


カード

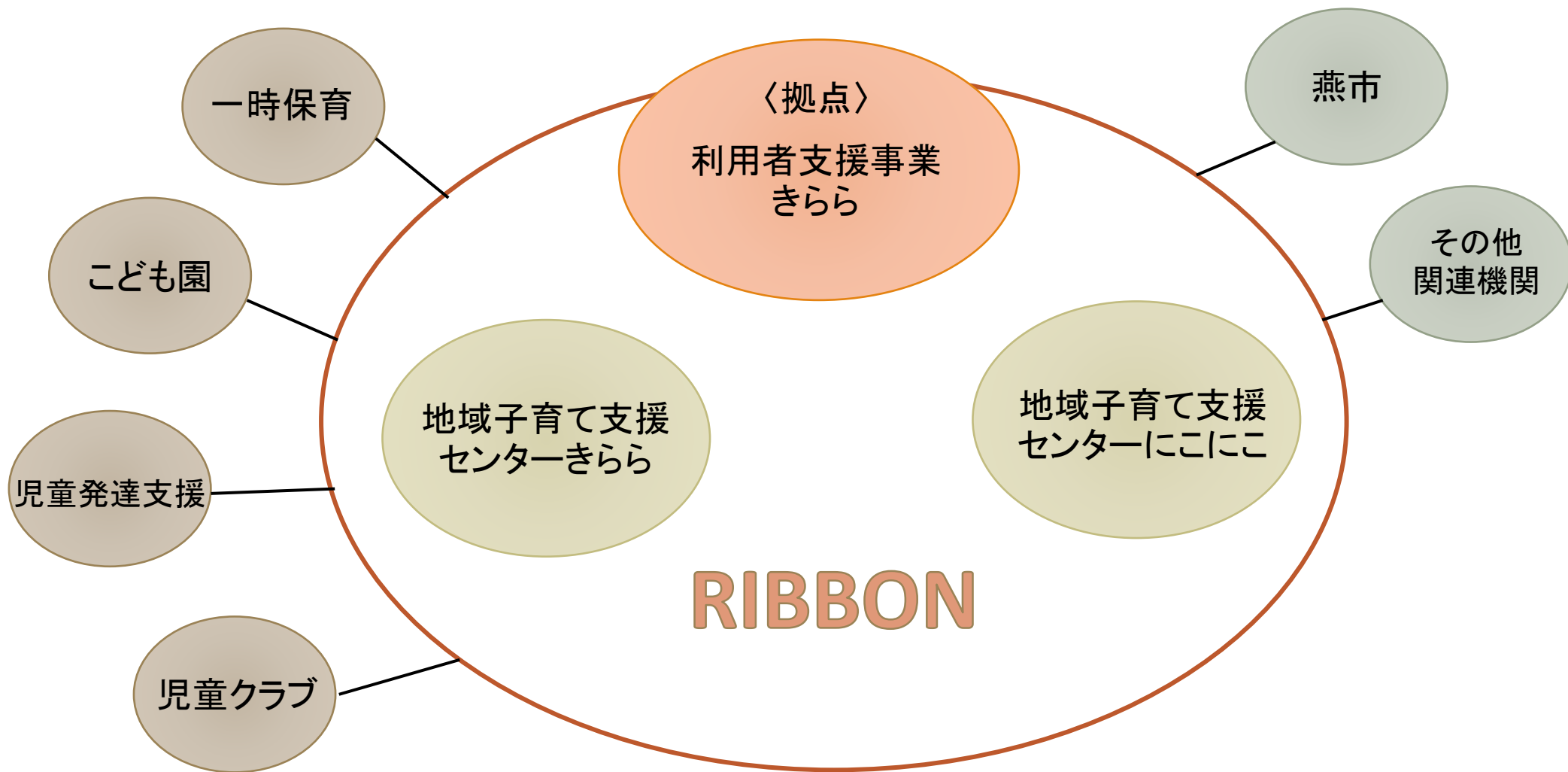


○RIBBONの連携機能

RIBBON



○RIBBONと他事業所の連携機能



【効果の検証】

RIBBON結成から1年

RIBBONをどのように評価するのか・・・
職員にインタビューをおこなった



【倫理的配慮】

- ・インタビューは、発表者がRIBBON(利用者支援事業きらら(基本型)、地域子育て支援センターきらら、地域子育て支援センターにここ)職員6名に対して無記名の質問用紙への記入を依頼した。
- ・本調査の成果を学会で公表し報告すること。インタビューへの参加は任意であり、参加しない場合でも不利益はないこと、インタビュー後も参加を撤回できることを口頭で説明した。
- ・その結果、すべての参加者から同意が得られた。

○肯定的な意見

- 他の事業所との連携により、親子の変化に早期に気づくことができる。
- 他事業所の活動や支援を案内できるので、親子への援助の幅がひろがった。
- 情報共有を行うことで、自分の見えている親子とは違う姿を知ることができ、理解が深まる。
- 連携により子育て支援センターが利用しやすくなり、利用者数が増加したと考えられる。
- 情報共有の中から浮かび上がった問題を、3事業所、また他の連携事業と共に援助にむすびつけることができた。
- 職員が問題をひとりで背負うことなく、チームで取り組めることが心強い。
- 親子を複数の視点でとらえられ、様々なアイデアを出し合える。
- 多方面からの情報が集まることから、子育て家庭のニーズが浮かび上がり、子育て支援イベントを開催した。
- 他事業所と連携することで、職員間に「地域を支える」という意識が出てきた。
- RIBBONの存在は地域の子育て家庭に安心感を与えられると思う。

○今後の課題

- 職員間でRIBBON業務の認識の相違や、連携の行き違いがある。
- 他事業所につなげて終わりになっていないか。その後の親子の現状が把握できているか。
- 連携すべき親子の見極めが難しい。支援が必要な親子を適切につなげられているか。
- 3つの事業所を利用する親子も多いため、支援がうるさくなくなっていないか気になる。
- 日々の業務に加え、仕事が大変になった。

【考察】

包括的な支援の提供は、職員からはこのように捉えられていた。

結成までの準備期間が短く、RIBBONの目的や機能を十分に理解できないままの出發となり、この包括的な支援を手探りで実践してきた経緯がある。

結成から1年が経過し、「親子の理解が深まった」「援助の手段が増えた」という効果、「チームで難しいケースに取り組める心強さ」や「1事業所から地域の支援へ」という職員意識への効果も見られた。

一方、RIBBONの活動内容の理解が職員間で統一できていない、きめ細やかな「連携」の難しさ、仕事量の多さなどの課題がある。

今後、法人としてRIBBONをよりよくするために取り組むべきこと

RIBBON事業の明言化
(事業計画・マニュアル)



個々の職員の専門性と
チーム力の向上

包括的で切れ目のない支援
(利用者支援事業が軸となり、
伴走型の支援継続)

効果的な「連携」方法の構築
(連携シート・会議の
オンライン化など)

今回は、支援者からの評価であった。

一方で、利用者からの評価は得られていない。

上記も踏まえて、法人の子育て体制をさらによりよいものに
構築していきたいと考える。

ご清聴ありがとうございました



吉田福社会 子育てに関する相談総合窓口RIBBON
利用者支援事業きらら(基本型) 地域子育て支援センターきらら 地域子育て支援センターにここ